

由利本荘市立東由利中学校



だいやま 台山



学校HP

【学校教育目標】
清らかにたくましく
学校だより
N051
令和7年3月11日(火)

第56期卒業生 晴れやかな旅立ち



たくさんの来賓の方々、保護者、職員や在校生に見守られ、第56期生21名

が立派に学び舎を巣立っていきました。

8日(土)に行われた令和6年度卒業式は、厳粛で凛々しく、そして感動的な式となりました。朝は別れを惜しむかのようななごり雪が降る中でしたが、式が近付くにつれ日も差し、最後は外で歓送も行うほどになりました。

卒業生は、1人1人の証書の受け取る姿や所作、話を聞く姿勢など、これまでの中学校生活での成長を感じさせる立派なものでした。ただ、遥さんの答辞や「旅立ちの日」の歌では、様々なこれまでの思い出が去来したのでしょうか、感極まって涙する卒業生がほとんどでした。その感涙につられる在校生も多く、本当に感動的な思い出に残る式となりました。

遥さんが答辞でも触れていたように、これまで保護者の皆さまや地域の方々がたくさんお世話になったことと思います。卒業生に代わり、これまでのご厚情に感謝いたします。今後も、56期卒業生を地域の仲間として温かくお見守りください。



～答辞～

冷たい風の中にも柔らかな日差しが注ぎ、春の訪れが感じられるようになりました。本日は、私たちのために、心温まる卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

思い起こせば3年前、真新しい制服に身を包み、東由利中学校の門をくぐったあの日から、あっという間の時間でした。

入学当初は、3年生がすごく大人に感じました。また、教科ごとに先生が変わる授業や、生活のきまり、執行部の活動など、何もかもが新鮮でした。今、思うと、新しい環境の中で、なかなか自分らしさを出せずにいたようにも思います。

2年生の時には、生徒会活動や学校行事で、重要な役割を任せられるようになり、頼られる心地よさを感じる一方、責任を果たすことの大変さを実感しました。しかし、その責任感が、クラスとしてのまとまりや、授業に向かう姿勢など、私たちをよい方向に導き、成長させてくれたように思います。

そして3年生。何よりも楽しみにしていたのは修学旅行でした。初めてのプロ野球観戦。会場の熱気に圧倒されました。都内自主研修。知らない土地で、自分たちで考え、行動することは大きな冒険でした。東京ディズニーランド。どんなに雨が降っても、やっぱり夢の国でした。アトラクションも、オリジナルの食べ物も、お土産も、全部、めいっぱい、仲間と満喫しました。最終日、浅草。外国人に、英語で話しかける課題は、気が重く、勇気が必要でしたが、どうにか伝わった時の喜びは大きいものがありました。初めての経験の中に、たくさんの発見や、驚きなど、多くのことが凝縮された、あっという間の3日間でした。

学校行事では、3つのCの一つである「新しいことへの挑戦」が3年生のテーマでした。体育祭。メインとも言える色別パフォーマンスでは、修学旅行での野球応援を生かしながら、ハンドクラブや、かけ声を入れたり、制服でダンスを披露したりしました。曲の編集も自分たちで行うなど、去年以上に、自分たちの力で、体育祭を創り上げることができたと思います。

そして、私たちが先頭に立つて行う最後の行事、東中祭。各部門が「笑顔満祭」のテーマに向かって、自分たちなりに、精一杯の工夫を凝らし、一丸となって取り組むことができました。私たち3年生にとって、最後の東中祭が、3年間で一番だったと胸を張って言えます。特に、3年生によるステージ発表で、ダンスパフォーマンスに挑戦したことは最高の思い出になりました。振り付けから演出まで、みんなで何度も話し合いを重ねたことで、私たちにしかできないステージを届けられたと自負しています。幕が開く直前に、カーテンの隙間から見えたペンライトの光。絶対に成功させたいと、思いを一つにして円陣を組んだときの緊張感。それぞれのチームのダンスに声援を送りながらはしゃいだこと。そして、大きな拍手をもらいながら幕が閉じられた時の達成感。今でもあの時の気持ちが鮮明に蘇ってきます。あの感動と喜びは、少しでもよいステージを届けたいという、3年生の思いだけでなく、会場のみなさんが、一生懸命、私たちを応援し、盛り上げてくれたからこそ、得られたものだったと思います。

振り返ると、私たちは、いつの時も、本当にたくさんの方々に支えられ、励ましていただきながら、今日まで歩んできました。

勉強はもちろん、たくさん相談に乗り、人との関わり方や、生き方を教え、導いてくださった先生方。いつもきれいで、安全な生活環境を整えてくださった事務の先生、校務員さん、栄養士さん、調理員さん、司書の先生。私たちの成長を支えてくださり、ありがとうございました。

そして、どんな時も私たちに愛情を注いでくれた家族の皆さん。思えば、私たちは小学校の時から、いつも困らせ、心配ばかりかけてきました。私は、新しいことに挑戦するのが不安で、部活動でも、生徒会活動でも、愚痴をこぼしたり、弱音を吐いてしまったりすることがありました。そんな時でも、私の気持ちを受け止め、「やってみたら案外、楽しいかもよ」と、そっと背中を押してくれたお父さん、お母さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。声に出さずとも、心の中で、何度も「がんばれ、がんばれ」とつぶやきながら応援してくれていたこと、分かっています。私も、相手の気持ちに寄り添って、励まし、そして共にがんばれる、強くて優しい人になっていきたいと思っています。

私たちは、今日、中学校を卒業して、それぞれの夢に向かって、歩いていきます。時には立ち止まってしまうこともあるかもしれませんが、それでも、一步一步を大切に、着実に進んでいきたいと思っています。これからも大人になっていく私たちを見守ってください。在校生のみなさん、私たちに付いてきてくれて、一緒に思い出を作ってくれてありがとう。これからの東由利中学校が、みなさんの活躍でよりよいものとなり、地域に元気を与えられる学校であることを願っています。バトンは渡しましたよ。最後に3年生のみんな。勉強や部活動で切磋琢磨し合った時間や他愛のない話で笑い合った時間、どれもかけがえのない思い出です。小学校からずっと一緒に過ごしてきたので、今日がみんなで過ごす最後の日だと思えば、寂しくてなりません。正直、不安でいっぱいです。私は、ありのままの自分を受け止めてもらって、たくさん、みんなに甘えてきたので、新しい出会いの中で、自分を表現しながら、上手に関係を築いていけるのか、「怖さ」さえあります。でも、みんなと一緒に過ごした時間と、たくさん思い出を胸に、新しい世界で、自分を磨いていきたいと思っています。今まで本当にありがとう。離れても、それぞれの場所で、しっかりと成長していこうね。

素晴らしい先輩や後輩、先生方、家族の皆さん、そして地域の皆様に恵まれて、充実した中学校生活を送ることができたことは、私たち3年生、21名の誇りです。たくさん思い出と、かけがえのない中学校生活を支えてくださった、全ての方々と東由利中学校に、心から感謝します。

変わることはない友情、皆様への感謝の気持ちを胸に、今、私たちは新しい世界への一歩を踏み出します。どんな困難が立ちまわろうとも、自分たちの力を信じ、決して折れず、それぞれの夢に向かって、「清らかに たくましく」前進することを誓い、答辞といたします。

令和7年3月8日
第56期 卒業生代表 佐藤 *